

平成31年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる  
「プロジェクト型」の共同研究 研究報告書

令和2年5月12日現在

研究課題名	中東欧地域のエコクリティシズムに関する研究				
申請者 (代表者)	氏名		所属機関・職		
	小椋 彩		東洋大学文学部・助教		
研究構成員		氏名	所属機関・職	専門分野	役割分担
	1	菅原 祥	京都産業大学現代社会学部 准教授	社会学	共同研究者
	2	阿部 賢一	東京大学大学院人文社会系 研究科准教授	チェコ文学、 比較文学	共同研究者
	3	越野 剛	東京大学大学院人文社会研 究科・助教	ロシア文学、 災害文学	共同研究者
	4	野町 素己	北海道大学スラブ・ユーラ シア研究センター・教授	言語学	共同研究者
5	安達 大輔	北海道大学スラブ・ユーラ シア研究センター・准教授	ロシア文学・文 化	アドバイザー	

### 研究成果の概要

本研究の目的は、中東欧地域（ポーランド・チェコ・ベラルーシ）を対象に、スラヴ語圏ではまだなじみの薄い「エコクリティシズム」の方法を導入し、環境破壊・生態系・災害の他、支配/被支配の枠組みを明らかにするフェミニズム・マイノリティ・地域主義・(ポスト)コロニアリズムといった社会事象・社会問題に対する、文学・社会学・言語学の取り組みや役割の諸相を比較検討することである。

2019年9月17日、研究報告集会開催（当初2020年3月を予定）の打ち合わせ会を実施した（於東洋大学白山キャンパス、共同研究者のうち野町氏が欠席、研究報告集会のコメンテータを依頼している中村唯史・京都大学教授とアドバイザーの安達大輔・北大スラ研センター准教授が参加）。代表である小椋がプロジェクトの概要を説明、昨今可視化されてきた「ポーランド文化と環境問題」について解説を行った。また、文学が環境問題を扱う例としてポーランド作家オルガ・トカルチュク原作小説とその映画化（監督アグニエシュカ・ホランド、『ポコット』2017年）を挙げ、全員討論を行い問題意識の共有を図った。

構成員各自が研究を進め2020年3月に研究報告集会を行う予定であったが、感染症拡大予防のため実施が困難となり、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターのご配慮の結果、2020年度実施に延期となった。

なお、日本スラヴ学研究会の定期公開講演会を本プロジェクトと連動させた。本プロジェクト構成員参加のうえ、科研費基盤研究(B)「ロシア・ベラルーシ・ウクライナの交錯」(代表・越野剛)主催の特別講演会「緑のスラヴ文学」(2019年12月7日、於・東大本郷キャンパス、概要説明・小椋彩、司会・越野剛)を開催、ポーランドおよびウクライナから第一線の研究者を招いて中東欧のエコクリティシズムの研究の最前線について議論を深めた。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

**【招待講義】**

Ogura Hikaru, Symbiotic metaphor in Olga Tokarczuka's novels and Buddhist philosophy (Cardinal Stefan Wyszyński University in Warsaw, 2019. Jun. 07)

**【招待講演】**

小椋彩「オルガ・トカルチュクの文学世界」(名古屋外国語大学世界教養学科主催公開講演会、2019年11月27日)

小椋彩「文芸翻訳の仕事：ノーベル賞受賞作家作品の翻訳より」(東洋大学文学部就職キャリア支援講座講演会、東洋大学白山キャンパス、2019. Dec. 18)

小椋彩「キノコとシロンスクとトカルチュク：ノーベル賞作家オルガ・トカルチュクの翻訳より」(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター主催公開講演会、北海道大学総合図書館、2019. Dec. 21)

小椋彩「ノーベル賞作家オルガ・トカルチュクの文学とポーランド文化をめぐって」(東京大学人文社会系研究科現代文芸論研究室主催公開講演会、東京大学本郷キャンパス、2019. Dec. 23)

**【学会発表】**

Огура Хикару, Tokarczuk как проводник трансрегиональной литературы («III Хоревские чтения. Литература в социокультурном пространстве современной Центральной и Юго-Восточной Европы: аксиологический дискурс. Памяти Галины Яковлевны Ильиной» Институт славяноведения РАН, 2019. Nov. 21)

**【図書】**

オルガ・トカルチュク著、小椋彩訳・解説『プラヴィエクとそのほかの時代』松籟社、2019年

**【そのほか】**

小椋彩「ヒエラルキーを壊す菌糸」(ノーベル文学賞に関する評論)、毎日新聞、2019年10月17日付東京版夕刊

小椋彩「オルガ・トカルチュクの緑の顔」(ノーベル文学賞に関する評論)、東京新聞、2019年11月12日付夕刊

オルガ・トカルチュク著、小椋彩訳・解説「ノーベル文学賞受賞記念講演 優しい語り手」『世界』岩波書店、2020年3月

以上すべて謝辞無

**当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）**

小椋が本プロジェクトをもとに研究射程を拡げ、共同研究者を増やして2020年度の科研費（基盤研究B）に応募を予定している。

越野が本プロジェクトおよび上記科研費応募予定プロジェクトと並行して、災害文学に関する科研費（研究種目未定）への応募を予定している。

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。